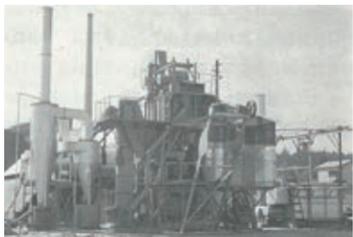


社会の課題と向き合って1世紀、そして未来へ

| 1919 » 1945 | 1946 » 1960 | 1961 » 1984 | 1985 » 2011 | 2012 » 2020 |
|---|---|--|---|---|
| <p>創業の時代</p> <p>第一次世界大戦の余波を受けて好景気に沸いた大正時代の日本では、貿易が伸張り、さまざま産業が発展。そうした中、当時日本一の年商を誇った神戸の総合商社、鈴木商店の幹部が中心となって、1919年8月、シヨベルやスコップ、ツルハシ、建築用金物類の製造販売を行う「日本工具製作所株式会社」を設立。</p>  <p>第1号シヨベル</p> | <p>戦後復興と事業の拡大</p> <p>1950年に朝鮮戦争が勃発すると、特需景気によりシヨベルなどの生産が拡大。旺盛な土木工事を反映して、1956年にバッチャープラントの製造を開始した。またモータリゼーションの幕開けによる道路工事が拡大するなか、1958年にはアスファルトプラントの試作機を完成させた。工具メーカーから建築機械メーカーへの脱皮の土台を築く。</p>  <p>アスファルトプラント</p> | <p>建設機械メーカーへの脱皮</p> <p>アスファルトプラントなどの建設機械や建設工事に不可欠なベルトコンベヤなどに業容を拡大させるなか1968年に「日工株式会社」に社名を変更。米国・ポーイング社、ドイツ・ベニングホーヘン社、オランダ・フィリップ社との技術提携を通じて時代のニーズに対応した製品開発を行う。</p>  <p>当時の製品開発風景</p> | <p>環境事業への注力とアジアへの展開</p> <p>1998年に環境事業部を設立して、プラントエンジニアリング技術を基盤として、環境に配慮した最先端プラント・装置の開発に着手。2001年には、中国市場への本格参入を目指して日工(上海)工程机械有限公司を設立。アスファルト舗装廃材を再利用するリサイクルプラントの開発(1977年)以来、全量のリサイクル利用を推進。</p>  <p>上海でのプラント1号機組立を記念して</p> | <p>プラント製品の低炭素化とリモートメンテナンスの強化</p> <p>2012年にアスファルトプラントに適用できる固形バイオマス燃料燃焼システムを開発。多様な代替燃料に適用できる燃焼バーナの製品化を通じてプラントの低・脱炭素化に注力。顧客プラントへの事前予防型リモートメンテナンス拡充のため制御・解析技術の高度化に取組み遠隔支援を強化。2020年に東南アジア進出の拠点としてNikko Asia (Thailand) Co.,Ltd.を設立、上海現地法人に次いでアジア展開を加速。</p>  <p>カスタマーサポートセンター</p> |

社会課題の変遷

土木工事の
労働生産性向上

国土インフラ
(鉄道、道路、港湾、ダム)の
整備・拡充

環境汚染への対応
整備・拡充

循環型社会の実現
新興国のインフラ整備

11 住み続けられる
まちづくりを



12 つくる責任
つかう責任



13 気候変動に
具体的な対策を

